

今は無き

長久保城の話

ながくぼ

秀吉と宗廉、
作戦会議の城!!

Enjoy!

Nagaizumi

Sanpo

発行 ながいずみ観光交流協会



長久保城の歴史を再現した出陣武者行列風景(2010年9月)

今川・北条・武田・豊臣・徳川にとって重要な意味をもっていた長久保城



長泉町ふるさとカルタより

そ

騷乱の時代に在りし 長久保城
戦国時代の平山城で、戦略上の要害にあったため今川氏、武田氏、北条氏、徳川氏がこの城をめぐって争った。発掘により三日月堀(甲州流の築城術)や畝堀(北条氏の築城術)が発見された。城郭は大部分が失われ、僅かに長泉北小学校正門前の空堀・土塁・曲輪と城山神社境内の曲輪・土塁が残っている。



北条の畝堀



武田の三日月堀

クチコミ
その1

砦から城へ…長久保城の移り変わり

鎌倉時代初期、竹之下孫八左衛門頼忠が、長久保の地(現在のウェルディー長泉周辺)に砦を築いたのが長久保城の始まりといわれ、本格的な城が築かれたのは戦国期。今川氏が築城し、その後、後北条氏との間で争奪戦があった。

桶狭間の戦いで今川義元討死以降、武田氏が駿東地域に侵入を開始。その後武田氏と後北条氏との勢力争いの末、武田氏の城となったが、武田氏が滅亡すると、駿東地方は徳川家康の領するところとなった。



長久保城址説明図



長泉町ふるさとカルタより

は

萩姫の伝説残る 牛ヶ淵
長泉北中学校北側の黄瀬川の深い淵を「牛ヶ淵」と呼んでいて、この淵には悲しい伝説がある。ある豪雨の夜、長久保城が武田軍に攻められ落城してしまいました。城の萩姫は、数人の兵士や乳母に守られ牛車で城を抜け出したが、濁流渦巻くこの淵に牛車もろとも転落し、命を落としてしまったという。



牛ヶ淵



ち

長泉町ふるさとカルタより



長久保城出土品の数々文化財展示館にて展示(コミュニティながいずみ2F)

血に染まる 鎧洗いし 鎧ヶ淵
長久保城をめぐって多くの武士が戦った高橋での合戦で、血に染まった鎧や刀を洗ったり、激戦で使用不能になった鎧を沈めた淵といわれている。また、傷つき敵に追われた武者が馬を淵に乗り入れ、自ら命を絶ったという話も伝わっている。



牛ヶ淵

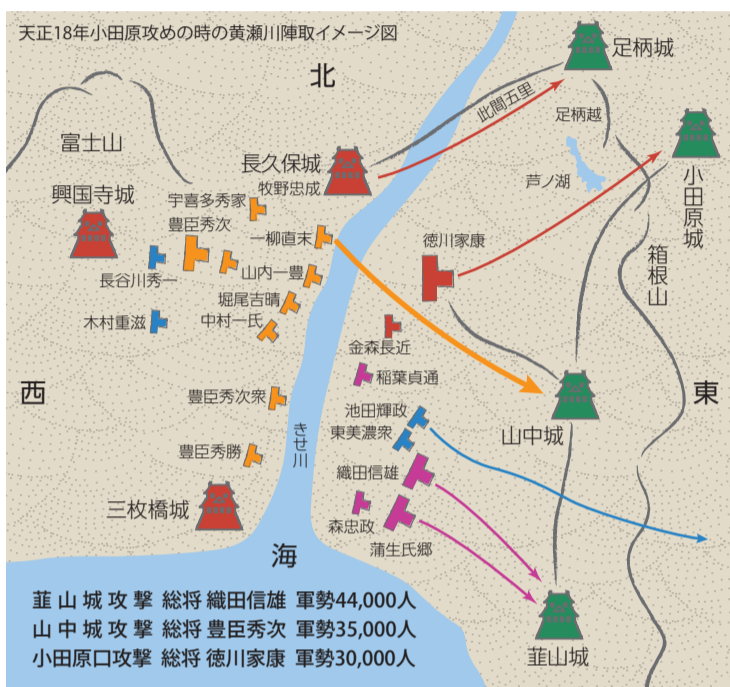
長久保城の歴史年表(一部異説あり)	
時代	支配者
鎌倉時代(1185年)	竹之下孫八左衛門
室町時代(1336年)	今川氏
1537年	北条氏
1545年	今川氏
1570年	北条氏 武田氏
安土桃山時代(1573年)	徳川氏
1582年	豊臣氏
1590年	豊臣氏
江戸時代(1603年)	徳川氏

出来事
長久保城支配(長久保氏)
長久保城修復
長久保城下の戦い『鎧ヶ淵の由来』
萩姫が牛車と共に淵に身投げ『牛ヶ淵の由来』
長久保城で秀吉と家康が小田原攻めの最後の軍議
山中城の戦い
一柳直末が戦死
『一柳直末公首塚』
長久保城廃城





▲400年前の長久保城イメージ図



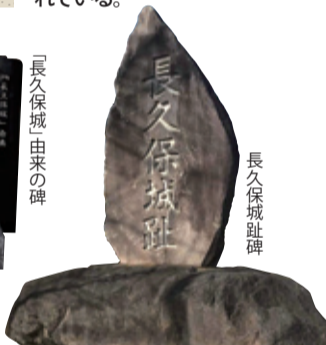
クチコミ
その2

秀吉、小田原攻めの作戦会議

天正18年(1590年)織田信長の「天下統一」の志を継いだ豊臣秀吉は、最後の難関であった「小田原攻め」を開始し、長久保城はそのための前進基地になった。

天正18年3月18日に京都を出発した秀吉は3月27日に沼津三枚橋城に到着。これより先、家康は長久保城に入城し、秀吉の到着を待った。

3月28日、豊臣秀吉と徳川家康は、ここ長久保城で山中城攻めの最後の軍議を練ったと言われている。



長久保城の面影残る
史跡の数々…。

クチコミ
その3

山中城攻めの勇士眠る 一柳直末公首塚

秀吉の黄巾衣衆でもあった一柳直末は、山中城攻撃中に戦死。大将首を奪われることを恐れた従者、旗持留兵衛により黄瀬川のほとりに埋葬された。直末戦死の報に接した秀吉は、愁嘆すること連日に及んだという。

なお、首以外のご遺体は山中城跡 宗閑寺に、北条方の武将達と並んで埋葬されており、山中城を巡る激しい戦いの跡が伺える。



山中の城見て眠る 直末公
 尾尻公園に一柳直末の首塚がある。直末は美濃河田の城主で、天正18年(1590)豊臣秀吉の小田原攻めの際、山中城の戦いで先鋒を務め銃弾にあたり38歳の生涯を閉じた。直末に従っていた旗持留兵衛は、主人の首が敵に奪われることを恐れ前夜宿営し、山中城を望む下長窪尾尻に埋葬したと伝えられる。

長泉町指定有形文化財



クチコミ
その4

長久保城の守護神「八幡神像」

長泉町指定有形文化財の「八幡神像」は、長久保城の守護神で八幡曲輪にまつられていたが、長久保城廃城後、香州元硬禪師が西願寺を創建した際、同時にまつられることになったという。



クチコミ
その5

伊能忠敬より42年前に 日本地図を作成した長久保赤水!

長久保城主、長久保親政の子孫と称する長久保赤水は、江戸時代のベストセラー「日本輿地路程全図」を作成。

伊能忠敬の日本地図は、幕命による実測図であり、国防上不公開だったが、反面、赤水図は実測図ではないが、ほぼ正確な海岸線・地名・縮尺及び緯度経度を持ち、修正を続けた後それ以前の地図とは一線を画す優れたものとなり、明治初期まで一般に使われ、かの有名な吉田松陰も使用した。



現在、長久保氏の末裔は茨城県高萩市に在住し、平成9年に城山神社で行った長久保城主太刀献式に、長久保源蔵様ご夫妻が来町された。

◀長久保赤水像(茨城県高萩市)